



東北最大級の干潟 松川浦

1 干潟ってなに？

干潟について知っていますか？干潟とは砂泥質で傾斜がとてもなだらかな海岸であり、干潮時に干上がり、満潮時には海面下に沈む環境を指します。干潟にはさまざまな貝やカニ、エビ、ゴカイなどが生息しており、潮の満ち引きがあるため、干潮時には鳥類の餌場として、また冠水時には稚魚等の生育場としても利用される、多くの生きものを支えている大切な環境です。生息する生きものたちが川や海から流れてくる有機物を利用するため、干潟には水質を浄化するのはたらきもあります。

2 松川浦について

松川浦は、相馬市の東部にある福島県唯一の潟湖（せきこ・かたこ）であり、県立自然公園に指定されています。面積は646ヘクタール、最大水深4mと浅い潟湖です。松川浦の干潟には貝やカニ、エビなどの生きものが数多く生息しており、2021年度の環境省によるモニタリング調査^{※1}では、松川浦内に設置した2箇所の調査地全体で**123種もの底生動物**^{※2}が確認されています。松川浦は平成23年の東日本大震災で津波による被害を受け、生きものにも大きな影響がありましたが、年々回復し、現在は震災前よりも高い多様性を維持していると考えられています^{※1}。

干潟がそこにあることによって、私たちは多くの恩恵（生態系サービス）を受けています。松川浦は多様な生物を育み、アサリやヒトエグサ、カレイ類のような水産資源を供給し、水をきれいにし、釣りや潮干狩りの場としても利用されています。「松川浦の恵み」がもたらす経済的価値を試算すると、その価値は1年あたり**80億2332万円**^{※3}とも言われています。



鶴の尾岬から見た松川浦（上）、いずれも希少種のフトヘナタリ（下左）、ツバサゴカイの棲管（下中）およびマツカワウラカワザンショウ（下右）。撮影：国環研企画部広報室、金谷弦。

※1 環境省（2022）2021年度モニタリングサイト1000磯・干潟調査報告書。環境省自然環境局生物多様性センター、p.192
※2 底生動物とは、水域に生息する動物のうち、主に、水底を構成する土砂や岩などを生息の基盤として利用するものの総称であり、ペンタス（ギリシャ語で海底を意味する）とも呼ばれています。
※3 金谷弦（2016）干潟のめぐみとその経済価値評価。水環境学会誌 39：135-140